音楽科学習指導案

日　時　令和４年 12 月 15 日(木)
６校時 14：20～15：05
学校名　文京区立青柳小学校
対　象　第６学年２組　28 名
会　場　４　階　音　楽　室
授業者　指導教諭　金田　美奈子

１　題材名　曲想の移り変わりを味わいながらきこう（小学生の音楽６：教育芸術社）

２　題材の目標

(1)曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解する。
(2)旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。
(3)曲想及びその変化と旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みとの関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、「ハンガリー舞曲第５番」に親しむ。

３　指導事項との関連

Ｂ 鑑賞(1)ア　イ〔共通事項〕(1)ア
（本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」「調」「速度」「反復」「変化」）

４　題材の評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
知①曲想及びその変化と旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みとの関わりについて理解している。	思①旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 思②旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて理解したことを踏まえ、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	態①曲想及びその変化と旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みとの関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

５　題材設定の理由

本題材では、第１時が既習事項を生かして楽曲全体を知覚・感受したり分析的に聴いたりする時間、第２時が複数の音源から演奏者による様々な表現の違いに触れながら、楽曲を理解する時間、第３時が、紹介文を通して自分の考えをまとめる時間とする。また、児童の学びが継続するような学習カードを作成して児童一人一人の学びの過程を把握し、「粘り強い取組を行おうとする」姿や「自らの学習を調整しようとする」姿を見取り、指導と評価の一体化に努めていく。このように、第１時に音楽を知覚・感受した経験が、第２時と第３時の学びを通してどのように深まったのかを自分自身で振り返りながら学ぶことができるように指導計画を工夫することで、自分の思いや考えを適切な言語で表現し、曲全体を深く捉えて紹介文を書くことができるようになるとともに、音楽を形づくっている要素から生み出される曲想の移り変わりを味わって聴く力が育成されると考え、本題材を設定した。

６　教材について

『ハンガリー舞曲　第５番』（ブラームス作曲　シュメリング編曲）

４分の２拍子　三部形式（A-B-A）Allegro　ト短調。原曲のピアノ連弾曲は嬰へ短調

ブラームスが採譜したチャールダーシュの旋律を使い、21 曲からなるピアノ連弾の曲集とした「ハンガリー舞曲集」の中の第５番。A はケーレル作のピアノ曲、B はボーグナー作の歌曲で構成し、最後の三音はブラームス自身のオリジナルである。まったく違う作曲家の書いたチャールダーシュを合体させることで、それぞれの曲のよさを引き出している。

７　題材の指導計画と評価計画（全３時間）

時	目標	○ 学習内容　・ 学習活動	評価規準(評価方法)		
			知・技	思	態
第１時	旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。	○反復・変化の知覚・感受 ・「ハンガリー舞曲第５番」を最後まで聴き、「アイア」の構成でできていることを捉える。 ○旋律の特徴や調の知覚・感受 ・それぞれの旋律の特徴を手の動きで表しながら聴く。 ・アとイを比べながら、調の変化に気を付けて聴く。 ○速度の変化の知覚・感受 ・旋律①②③④で、速度がどのように変化するのかに気を付けて聴く。 ○楽曲全体について自分の考えをまとめる。 ・もう一度「ハンガリー舞曲第５番」を聴き、アとイを比べながら聴き取ったことや感じ取ったことを、友達と交流する。 ・この曲のよさやおもしろさについて、自分の考えを学習カードに書く。		思① （記述、発言、聴取）	
第２時（本時）	曲想及びその変化と旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みとの関わりについて理解する。	○演奏者による表現の違いの知覚・感受 ・第１時で聴いたアバド指揮の演奏をもう一度聴く。 ・ミョンフン指揮の演奏を聴く。 ・二人の指揮者による表現の違いについて聴き取ったことや感じたことを、友達と交流する。 ・もう一度、指揮者が曲想の移り変わりをどのように工夫して表現しているのかについて、曲の構造を手掛かりにして考えながら、聴き比べる。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを学習カードにまとめる。 ・友達と演奏のよさについて交流する。 ○曲想及びその変化と旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みの関わりについての理解 ・「ハンガリー舞曲第５番」の曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて、理解したことを学習カードにまとめる。	知① （聴取、発言、記述）		
第３時	旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りなが	○曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わう。 ・「ハンガリー舞曲第５番」の映像資料を見ながら聴き、指揮者による表現の違いについて気付いたことや感じたことを友達と交流する。		思② （記述、発言）	態① （行動観察、記述）

	ら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて理解したことを踏まえ、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴く。	・曲や演奏のよさについて触れながら、「ハンガリー舞曲第５番」の紹介文を書く。			

８　本時（全３時間中の第２時）

(1)　本時の目標

曲想及びその変化と旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みとの関わりについて理解する。

(2)　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	☆ 指導上の留意点　配慮事項	評価規準(評価方法)
導入 ５分	○旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みの復習 ・曲の構成に気を付けて「ハンガリー舞曲第５番」を聴く。	☆２拍子を感じて指揮をするよう指示をする。	
展開 ３５分	○本時のめあての確認 曲想の移り変わりを感じ取りながらきき比べをしよう。		
	○演奏者による表現の違いの知覚・感受 ・第１時で聴いたアバド指揮の演奏をもう一度聴く。 ・ミョンフン指揮の演奏を聴く。 ・二人の指揮者による表現の違いについて聴き取ったことや感じたことを、友達と交流する。 ・もう一度､指揮者が曲想の移り変わりをどのように工夫して表現しているのかについて、曲の構造を手掛かりにして考えながら、聴き比べる。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを学習カードにまとめる。 ・友達と演奏のよさについて交流する。	☆旋律を口ずさんだり手で旋律の動きを表したりしながら聴く活動を設定する。 ☆強弱の違い等について聴き取ったことや感じ取ったことも手掛かりにしてよいこととする。 ☆アゴーギグに気付いた児童がいた場合は全体で共有するようにする。 ☆全体で共有するとよいことを板書で整理する。	
	○曲想及びその変化と旋律の特徴や調及び速度、音楽の仕組みの関わりについての理解 ・「ハンガリー舞曲第５番」の曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて、理解したことを学習カードにまとめる。	☆二人の指揮者の表現の違いについて考えた経験を踏まえて､理解したことを書くよう指示をする。	知①曲想及びその変化と旋律の特徴や調及び速度､音楽の仕組みとの関わりについて理解している。 (聴取、発言、記述)
まとめ ５分	・振り返りを書く。	☆最終時の紹介文で学びの変容を児童自身が振り返ることができるような内容を書くように指示をする。	